

アルメニアの歴史

190514

アルメニア人支配	外人支配	宗教	年号	出来事
				チグリス川とユーフラテス川の源流近くで、黒海とカスピ海の間のコーカサス地方のアルメニア高原は、メソポタミアの一部として、世界最古の文明発祥地の一つである。
			BC7000	☞チグリス・ユーフラテス川を利用して、活発に河川交易が行われていた。 ☞アルメニア人の起源は未だ解明されていない。
	ウラルトゥ王国		BC860～ BC585	☞アッシリアの文書によれば、アナトリアのメソポタミア北部からヴァン湖を中心に、コーカサス南部に存在した国。 ☞ウラルトゥ王国は、民族系統も語学系統共に、アルメニア人ではない。 ☞BC782、アルギシュティ1世(BC785～BC753)の時代、エレブニに要塞とか神殿や宮殿を建設し、用水路建設や果樹園の経営という農業振興に力を入れ繁栄させた。 ☞BC714、ルサ1世が、サルゴン2世のアッシリア軍に大敗して王は自殺。 ☞BC590、その後も、スキタイ人、メディア人等により滅亡させられた。
	アケメネス朝 ペルシャ	ゾロアスター	AD550	☞ペルシャにアケメネス朝が、バサルガダエ(シーラーズ近郊)を首都とした。 ☞この地域がアケメネス朝のサトラップ制度により管理されたが、ペルシャ系のオロンテス家が上手に付き合い、繁栄した
	マケドニア王国 ・セレウコス朝		AD331	☞アケメネス朝を滅ぼしたマケドニア王国によって、アルメニアも支配された。オロンテス家が上手に付き合い、繁栄した ☞セレウコス朝マケドニアは、首都をアルマヴィルから、イェルヴァンダシャトに移転した。
アルタクシアス朝 アルメニア王国 首都＝アルタハタ (現アルタシャト)			BC200	☞西からガラティアが、東からパルティアが侵入し、勢いをなくしていった。 ☞王家の一族アルタクシアスが、セレウコス朝の支持のもと反乱を起こし、首都をエレバンの南東30kmのアルタハタにした。 ☞BC190、セレウコス朝がマグネシアの戦いで共和政ローマに敗れ、アルタクシアスはアパメアの和約によって正式にアルメニア王国を与えられた。史上初のアルメニア人の国家である。
			BC95	☞アルタクシアスの孫ディグラネス2世(BC95～BC55)は、領土を拡大しパルティア、セレウコス朝から称号を付与された ☞BC69、同盟関係にあったポントス王国から王女クレオパトラを請けたが、ローマを相手にミトリダテス戦争を始めたので、アルメニア王国もポンペイウスのローマに降伏した。そして、BC01、滅亡した。
	パルティア人の アルメニア		226	☞アルケサス朝パルティアが滅亡し、ゾロアスター教を国教にしたアーリア人のササン朝ペルシャが承継した。
	ササン朝ペルシャ人の アルメニア	キリスト	301	☞287、トルダテス3世は、改宗の地ヴァガルシャパトにエレバンの西20kmに聖堂エチミアジンを築いた。 ☞301、世界最初のキリスト教国の誕生であった。 ☞404、ササン朝から政治的、宗教的自由を得たアルメニアは、アルメニア文字を発明した。 ☞451、ビティニア王国のカルケドン公会議で、アルメニアの合性論が異端とされ、独自の信仰が可能となった。
	東ローマ帝国		536	☞東ローマ皇帝ユスティニアヌスが東ローマ領アルメニアにおける行政職をすべて廃し、また国境を要塞化したので、ペルシア領アルメニアとのいかなる交流も断たれた。 ☞しかし、歴史・神学・哲学分野におけるアルメニア文学の黄金時代でもあった。さらに、東ローマ領に移住したアルメニア人のなかには、マケドニア王朝の祖となったバシレイオス1世のように、東ローマ皇帝にまで登りつめる者も現われた。
	ウマイヤ朝 イスラム	イスラム	633	☞アルメニア公テオドル・ルシュトゥニはシリア総督ムアーウィヤと和睦し、アルメニアには広い自治権と信教の自由が与えられ、農業と交易が大きく発展した。
	アッバース朝 イスラム	イスラム	750	☞アッバース革命によってウマイヤ朝が滅びても、続くアッバース朝もイスラーム帝国の理念に従い、非アラブ人にも対等な取扱いを保障するようになった。

アルメニア人支配	外人支配	宗教	年号	出来事
バグラト朝 アルメニア王国 首都＝アニ		キリスト	885～ 1045	<ul style="list-style-type: none"> ☞885、アルメニア王アショト1世として東ローマとイスラム両国に独立を承認させた。 ☞鉱物資源の開発により産業が発展し、生産された陶磁器や織物、宝飾品はアジア各地へ輸出された。また、多数のアルメニア教会が新たに建てられた繁栄と芸術の黄金期を迎えた。 ☞1045、バシレイオス2世時代に勢力を拡大していた東ローマは、アルメニアの内紛を尻目にガギク2世を退位させ、アルメニア王国は滅びた。
	セルジューク朝 トルコ	イスラム	1048～ 1194	<ul style="list-style-type: none"> ☞セルジューク朝は、アルメニアに侵入し始め、1064年にはアニを急襲し、陥落させた。 ☞イルハン朝とも間接的に友好を結んだが、やがてイルハン朝がイスラーム化するとアルメニアはすさまじい弾圧を受けたが過ぎるや、次にアルメニアは1世紀に渡って黒羊朝と白羊朝による争いの舞台とされ、苦難の時代は続いた
キリキア朝 アルメニア 首都＝キリキア		キリスト	1080	<ul style="list-style-type: none"> ☞キプロス島の対岸に位置するキリキアに、アルメニア本国がテュルクの侵攻にさらされた時、大勢のアルメニア人が、このキリキアの地を亡命先として選んだ。バグラトウニ家のルーベン1世が、新たに創始した「王家」がルーベン朝である。 ☞1198、十字軍への軍事物資支援によりレヴォン2世は王位を授与される。
			1253	<ul style="list-style-type: none"> ☞レヴォン2世の娘婿ヘトゥムは自らモンゴルの首都カラコルムまで赴き、オゴタイ・ハンと同盟を結んだ。 しかし、押し寄せるエジプト軍の前には、これらの同盟も全く歯が立たなかった。 ☞1266年にマムルーク朝の軍勢はキリキアを襲い、移転した首都シスに火を放ち絶滅した。
			1375	<ul style="list-style-type: none"> ☞マムルーク朝と和平したが、ほどなく王家は、近隣のキプロス王国の王族や互選された貴族が就くようになり、さらに西欧化主義者と民族主義者との対立やペストの流行は社会の混乱に拍車をかけた。 ☞キリキアはマムルーク朝の占領を受け、アルメニア王国は滅亡した。
	サファヴィー朝 ペルシャ	イスラム	1502	<ul style="list-style-type: none"> ☞東アルメニアで、白羊朝がサファヴィー朝に倒されたため、三度目のペルシア支配を受けることとなった ☞1604、サファビー朝のアッバース1世が、優秀な知能をペルシャに導入するため、イスファハーンに連行した
	ガジャール朝 ペルシャ	イスラム	1779	ペルシアで新たにガージャール朝が開かれ、その軍はアルメニアを越えて東グルジアのチフリスにまで北上した
	ロシア帝国	キリスト	1827	ガージャール朝は二度の敗北を喫し、トルコマンチャール条約によってロシアの領域はアラクス川北岸まで拡張した。
	オスマン帝国	イスラム	1853	クリミア戦争では、オスマン軍へ志願して、ロシア軍に所属する同胞とカフカース戦線で戦ったアルメニア人も多くいた。
	オスマン帝国	イスラム	1885	<ul style="list-style-type: none"> ☞アルメニア史最初の政党とされるアルメナカン党がヴァンで設立され、2年後にはジュネーヴで民族社会主義政党の社会民主フンチャク党が結成された。 ☞1890年、チフリスでアルメニア革命連盟(ダシュナク党)が結成され、これはオスマン・アルメニア人解放のためには武力闘争も辞さない強硬派として、アルメニア人政党の最大勢力へと発展してゆく。
アルメニア共和国		キリスト	1918	アルメニア共和国(第一共和国成立)
ソ連	ソ連		1936	アルメニア・ソヴィエト社会主義共和国成立
			1988	ナゴルノ・カラバフ帰属を巡るアゼルバイジャンとの抗争が表面化